

所 報

## たまじむ

平成 25 年 6 月 21 日

第 1 号

東京都多摩教育事務所

〔東京都立川市錦町 6-3-1〕

Tel 042-524-7137

Fax 042-528-0985

## 価値ある情報を発信し続ける 東京都多摩教育事務所を目指して

東京都多摩教育事務所長

安 部 典 子

こんにちは。東京都多摩教育事務所です。新年度から早 3 か月がたとうとしています。各学校では、新学期当初のあわただしさも落ち着き、充実した教育活動が行われているところではないでしょうか。

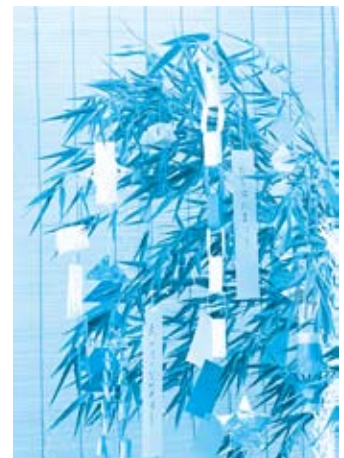
さて、多摩教育事務所は、子供たちの知・徳・体をバランスよく育むため、「言葉の力」をキーワードとして、学力向上・健全育成・体力向上の三つの課題に積極的に取り組んでいます。

昨年度、多摩教育事務所が主催する多摩地区教育推進委員会では、授業における言語活動の質を高め、児童・生徒の言語能力を着実に育成することを目指し、「クリティカル・シンキングを取り入れた授業づくり」をテーマとした研究を行いました。今年度は、この成果を多摩地区の公立小・中学校に普及させていくとともに、「言葉の力」を生かした生活指導も促進させていきたいと考えています。

また、「言葉の力」は、教師自身にも必要です。全ての教師の意識を目標に向かって統一する。児童・生徒と教師との信頼関係を築く。そして、日々の授業を充実したものにする。学校における全ての活動に一人一人の教師の「言葉の力」が重要な役割を果たします。そこで、今年度の多摩地区教育推進委員会では、「『言葉の力』を中核とした学校づくり」をテーマとし、学校運営という視点を取り入れた研究を行うこととしました。

多摩教育事務所では、上記の事業以外にも、市町村教育委員会と連携を図りながら、多摩地区の教育力の向上に向けた様々な事業を展開しており、授業づくりや学校運営に有意義な価値ある情報を発信しています。

この所報「たまじむ」も、私たちが発信する価値ある情報の一つと自負しております。多摩教育事務所の事業に注目していただき、その成果の活用をお願いします。



### ◇ ◇ 目 次 ◇ ◇

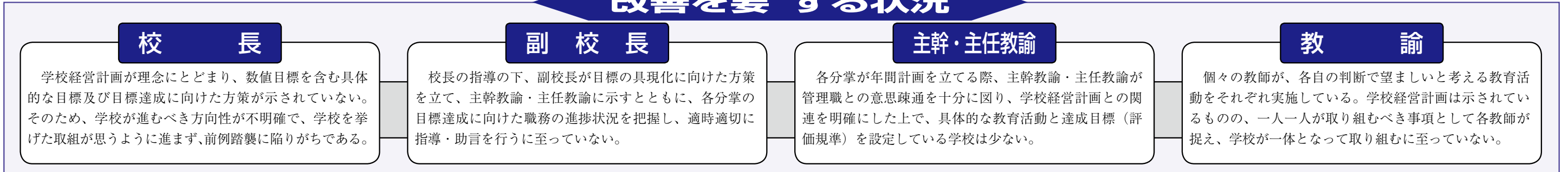
【巻頭言】	価値ある情報を発信し続ける東京都多摩教育事務所を目指して	1
【特集】	学校経営計画の着実な実施 — 協働体制の確立 —	2～3
【特集】	今後、特に求められる 教師の「言葉の力」	4～5
【特集】	子供の心を見つめる — 道徳授業地区公開講座における意見交換会の「話題源」—	6～7
【情報】	平成 25 年度東京都多摩教育事務所の主な事業紹介	8

◆ 本号は東京都多摩教育事務所ホームページからダウンロードすることができます。(提供するファイルはPDFファイルのデータです。)  
 ◆ 御希望の方は、東京都多摩教育事務所指導課のホームページにアクセスしてください。 <http://www.tamajimu.metro.tokyo.jp/>

# 学校経営計画の着実な実施 —協働体制の確立—

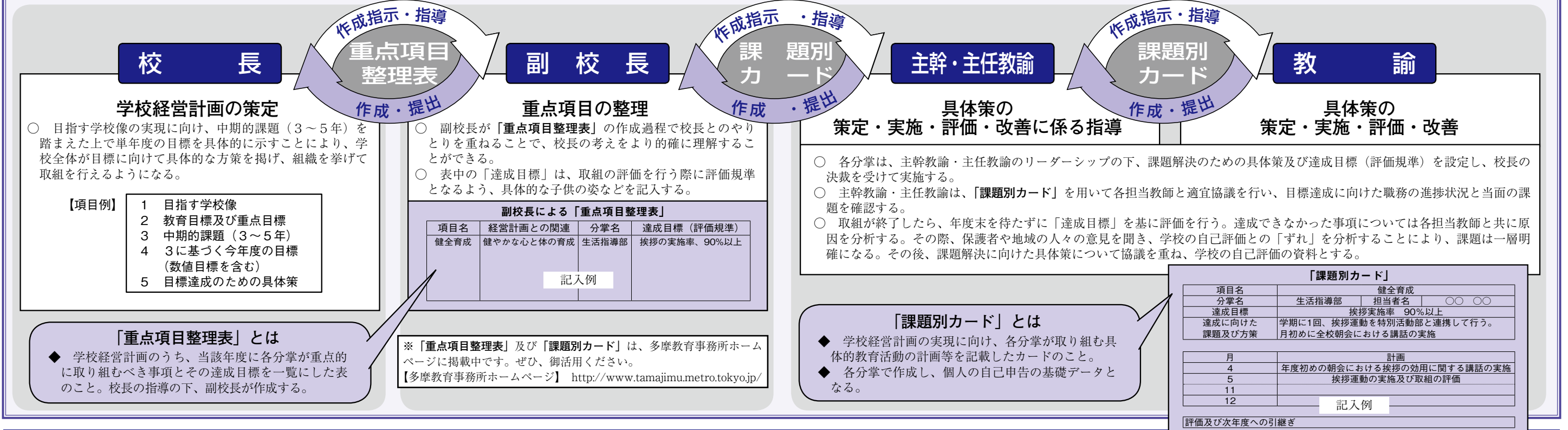
- ◆ 学校経営計画を着実に実施し、校長が描く目指す学校像を実現するためには、管理職のリーダーシップの下、所属職員の協働体制を確立することが必要です。
- ◆ 体制づくりで重要なのは、「目標への意思の統合」と「コミュニケーションの活性化」。学校が組織としての目標を堅持し、その達成に向けて職員が共通実践を積み重ね、学校改善が実現します。
- ◆ 本特集では、管理職相互、管理職と主幹教諭・主任教諭、各分掌内のコミュニケーションを活性化することで、目指す学校像の実現を図る具体的な方策を紹介しています。なお、学校経営計画の実現状況に関する評価・改善については、次号で特集します。

## 改善を要する状況



## 改善策

管理職は、目標と目標達成のための職務分担を示します。それを受けて主幹教諭・主任教諭は、目標達成に向けた分掌内の事務分担、進行管理、指導・助言を行います。その際、管理職相互、管理職と主幹教諭・主任教諭、各分掌内の双方向のコミュニケーションを活性化させることが、協働体制の確立につながります。次に示すのは、二つのコミュニケーションツール、副校長による「重点項目整理表」と主幹教諭・主任教諭及び教諭による「課題別カード」を用いた実践事例です。



本特集の活用例 ○ 校長会研修資料として ○ 副校長会資料として ○ 主幹教諭研修会資料として ○ 職員会議資料として

<参考資料> 「都立学校におけるマネジメントサイクルの導入に向けて」 学校経営計画策定検討委員会報告書 東京都教育委員会（平成14年11月）



# 今後、特に求められる 教師の「言葉の力」

- ◆ 教師が必要とする主な力は、「学習指導力」「生活指導力・進路指導力」「外部との連携・折衝力」「学校運営力・組織貢献力」の四つです。
- ◆ いずれも「言葉の力」、すなわち「情報を正確に理解した上で、相手の表現の意図や背景を推論し、根拠を挙げて自分の意見を述べ、話し合って課題を解決できる力」が基盤となります。
- ◆ 「学習指導力」と「生活指導力・進路指導力」は、これまでも校内研修等を通して育成されてきました。一方、「外部との連携・折衝力」と「学校運営力・組織貢献力」については、直接児童・生徒の教育指導に関わらないこともあり、これまで十分に取扱われてきませんでした。今後は、この二つの基盤となる「言葉の力」を研修や日々の職務を通して、より一層高めていくことが必要です。

## 外部との連携・折衝

—相手や目的に応じたコミュニケーション—

### 〈課題〉

多様化・複雑化する教育課題や保護者からの要望等に対応するため、保護者・地域・外部機関と連携して課題を解決する力を高めること。

社会状況や子供の変化等を背景に、保護者や地域、外部機関とのより強い連携関係の構築や苦情への対応等が求められています。

保護者からの要望・苦情への対応など、日常的に起こる問題を適切に解決するとともに、学校の教育方針や教育内容を保護者・地域・外部機関等に積極的に発信し、理解と協力を得ることが必要です。

### 【事例1】 ロールプレイを通じた対応力の向上 話す 聞く

保護者役、教師役、オブザーバー役を決め、演習を行う。役割を交代し、気付いたことを交流する。

<心構え> “子供のため”という共通の目標の下、協力して解決しようという意識で臨む。

<対話> ①相手の意見や主張の根拠を確かめながら聞く。  
②「～が心配なのですね。」「～と感じたのですね。」等、共感を伝える。  
③話の背景にある事情や心理を察する。

○ 「事実」と「推測」、「要望」と「難題」を整理した上で、学校側が対応可能なことを説明  
○ 相手の心理には共感し、客観的な事実については、再度調査するのが原則

### 【事例2】 保護者や地域住民に分かりやすい文書の作成 書く

次の5点に留意して、読み手が理解しやすい文書を作成する。

- 一文はできるだけ短く
- 箇条書きを用いて読みやすく
- 形容詞や接続語はできる限り削除
- 修飾語と被修飾語はできるだけ近接
- 専門用語やカタカナ用語の安易な使用は自粛



## 言葉の力

情報を正確に理解した上で、相手の表現の意図や背景を推論し、根拠を挙げて自分の意見を述べ、話し合って課題を解決できる力

### 聞く

- ◆ 話の要旨を的確に把握し、その内容を理解する。
- ◆ 話し手の気持ちや主張だけでなく、言外の思いや真意を感じ取る。

### 話す

- ◆ 相手や場面・目的に応じて、分かりやすく話す。
- ◆ 自分の考えを明確にして、説得力をもって論理的に伝える。

### 書く

- ◆ 読み手が理解しやすい論理的文章を書く。
- ◆ 会議や研修などで、分かりやすく説明するための資料を作成する。

### 読む

- ◆ 論理を的確に読み取る。
- ◆ 気持ちや感情を十分に読み取る。

## 学校運営・組織貢献

—論理的な思考・表現—

### 〈課題〉

学校の教育力を高め、組織的な課題解決を図るため、教師一人一人の企画力や会議での発言力をより一層向上させること。

教育課題が山積する中、課題解決型の運営が求められています。学校は自らの課題を把握し、その解決に向けた組織的・計画的な取組を進めることが重要です。

そのため、教師は自らの仕事をこなすだけでなく、学校改善に向けた企画・提案を行うとともに、上司や同僚とコミュニケーションをとりながら、改善に向けた方策を組織的に進めることが必要です。

### 【事例3】 「校務アイデアシート(企画書)」による校務改善の提案 書く

校長が示す学校経営計画実現に向けた個々の教師の発案を「企画書」にまとめ、上司に提出するシステムを校内で作る。具体的には校務の効率化や改善に係るアイデアを、A4判1枚に簡潔にまとめて提出する。

(企画書の項目例)

- 現状
- 課題
- 解決策
- 効果予想

企画書に定型はない。シンプルなど、論旨が明確になる。

※ 企画書の様式例は、多摩教育事務所ホームページに掲載中です。ぜひ、御活用ください。  
【多摩教育事務所ホームページ】  
<http://www.tamajimu.metro.tokyo.jp/>

### 【事例4】 参加者全員が発言する諸会議の実施 聞く 話す

次の5点に留意し、全教師が主体性に参画する会議を実現させる。

- 会議資料については、協議事項と伝達事項を分けて記述
- 協議事項については、協議のポイントを明記
- 全員が事前に資料を読み込み、疑問点や自己の考えをキーワードで記入
- 発言に際しては、結論が先、理由は簡潔に
- 議事録には、決定事項と確認事項を簡潔に記入し、即日共有を

### 【事例5】 全教職員による定期的なブックトーク 読む

校内研究や職員会議等で、ブックトークを輪番で行う。

- 発表者は、自ら決めたテーマに関連する複数冊の本を読破
- 複数冊の本をテーマに沿って紹介
- 聞き手からの質問に回答
- 紹介した本は、共有フォルダー等に収録し、誰でもいつでも閲覧可能に



### 〈課題〉

「国語の知識」や「教養・価値観・感性等」は、主に読書などの方法を通じて生涯にわたって形成されていく。

文化庁の「国語に関する世論調査」によれば、1か月間に1冊も本を読まない人の割合は、子供ばかりでなく、全ての年代にわたって増加している。

## 「国語の知識」や「教養・価値観・感性等」

読書は、言葉の力を育てる上で中核となるものです。特に、全ての活動の基盤となる「教養・価値観・感性等」を身に付けていくために極めて重要です。

読書指導を行うに当たり、教師自身が本を読んでいることが求められるのは当然のこと。教師が自らの読書経験を踏まえ、個々の子供の考え方や感受性等にきめ細かく配慮した指導を行うことが大切です。

本特集の活用例 ○ 学校経営方針の策定に係る資料として ○ 校内研究の推進に係る資料として ○ OJTの推進に係る資料として ○ 生活指導部会等、健全育成に係る会議資料として

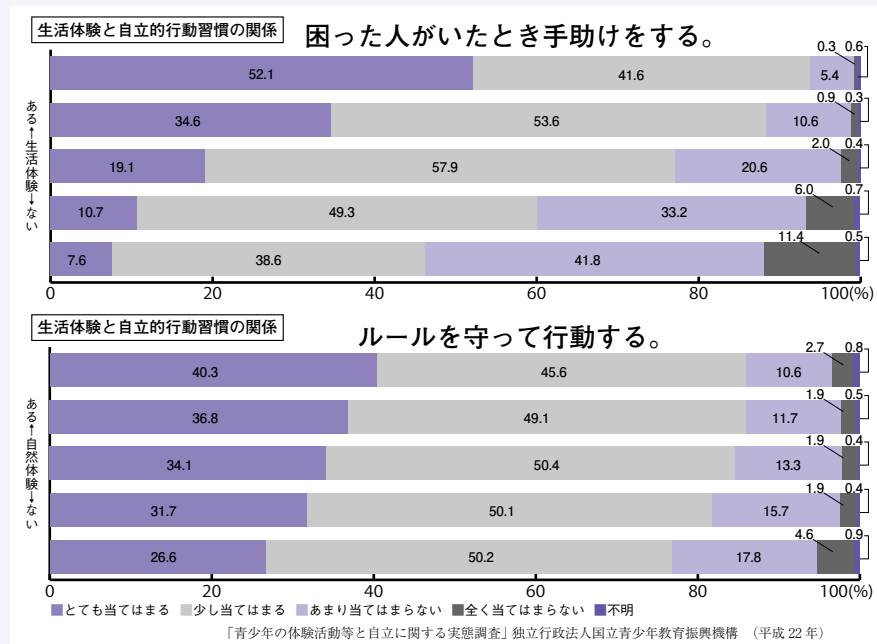
〔参考資料〕 「これからの時代に求められる国語力について」 文化審議会答申(平成16年2月) 「東京から『言葉の力』を再生する」 東京都「言葉の力」再生プロジェクト活動報告書(平成22年11月) OJTガイドライン～学校におけるOJTの実践～【改訂版】 東京都教育委員会(平成22年3月) 「学校問題解決のための手引～保護者との対話を活かすために～」 東京都教育委員会(平成22年3月) 「クリティカル・シンキングを取り入れた授業づくり～より高次な『知的創造』を目指して～」 東京都多摩地区教育推進委員会第18次計画(通算第39年次)報告書 東京都多摩教育事務所(平成25年2月)

# 子供の心を見つめる — 道徳授業地区公開講座における意見交換会の「話題源」 —

- ◆ 都内全ての公立小・中学校で開催している道徳授業地区公開講座。保護者、教師、地域の住民が、子供たちの豊かな心の育成について語り合う貴重な機会です。
- ◆ しかし、ともすると教師からは、授業の参加者は数多くいるが意見交換会まで残っていただけない、保護者からは、意見交換会で何をどのように話したらよいか分からない、といった声が寄せられます。
- ◆ 教師も保護者も「21世紀を担う子供たちの豊かな心の育成」を願う気持ちは同じ。本特集では、子供たちの心の育成について話し合うために、「体験」、「自尊感情」、「しつけ」の三つに着目し、それぞれ話題となるデータを掲載しました。複写して、意見交換会の配布資料として御活用ください。

## 体 験

- 子供の豊かな心を育むためには、他者や社会、自然などに関わる体験をさせることが重要です。
- 生活体験（※1）や自然体験（※2）と子供たちの心の育成とは、相関関係があります。



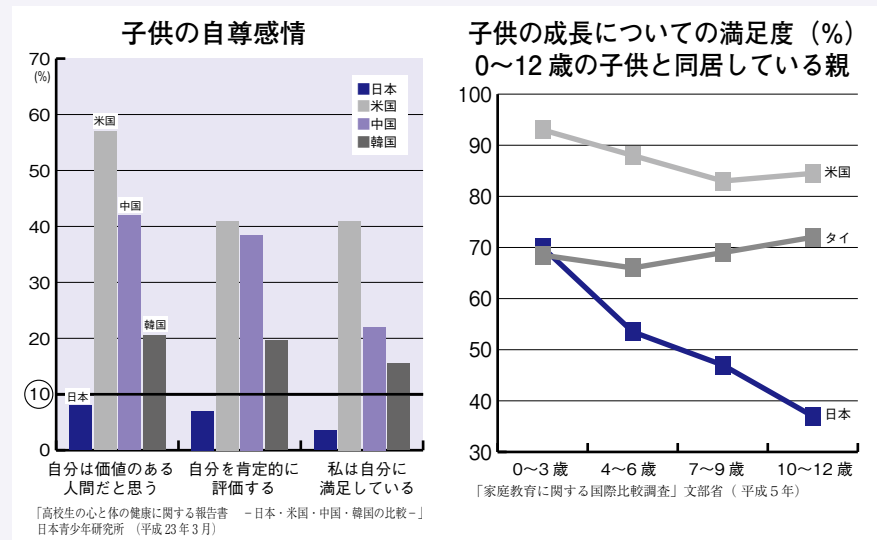
- ※1 生活体験 ・ナイフや包丁で果物の皮をむいたり、野菜を切ったりする。 ・ぞうきんを絞る。 ・靴などを磨く。 ・食器を洗う など
- ※2 自然体験 ・山登りやハイキング ・昆虫採取 ・海や川で泳ぐ ・星空観測 など

子供がよくやるお手伝いは…

**協議の視点** Q. 日頃、子供が行っている、又は、今後ぜひ行わせたい生活体験は？  
Q. 心に残っている自然体験は？

## 自 尊 感 情

- 自尊感情とは、自分を価値のあるかけがえのない存在と捉える感情のことです。
- 子供をもつ保護者が、我が子に抱く満足度は、国によってかなり異なるのが現状です。



子供によく発している言葉は…

**親は、よく私を褒めたり励ましたりする**

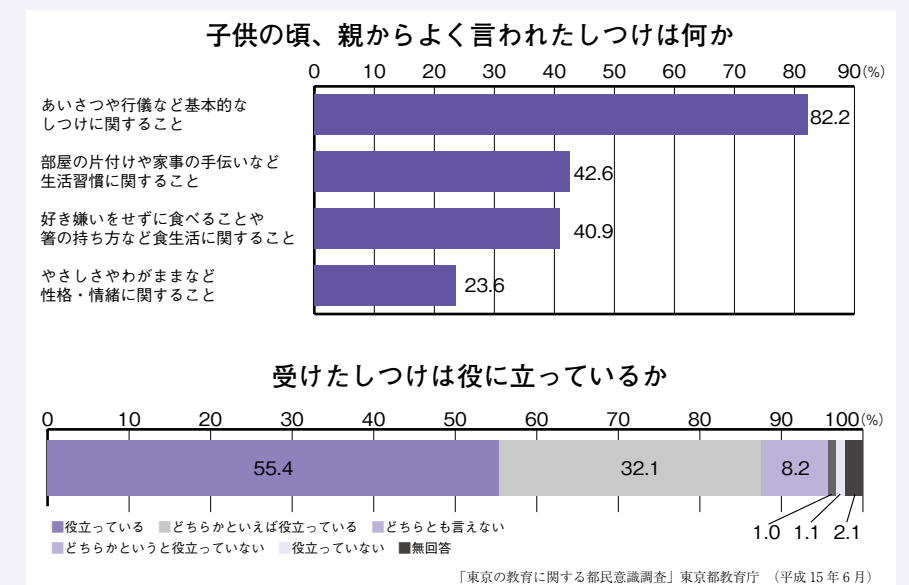
	日本	アメリカ	中国	韓国
全くそう・まあそう	57.8%	82.9%	73.4%	74.7%
あまりそうでない	32.1%	8.5%	19.1%	21.8%
全くそうでない	9.8%	2.5%	6.9%	3.4%
無回答	0.3%	6.1%	0.6%	0.1%

「日・米・中・韓の中 学生の生活と意識調査」日本青少年研究所（平成21年）

**協議の視点** Q. 子供のよい点や進歩の状況を評価するものさし、あなたはいくつもっていますか？

## し っ け

- しつけとは、「よい習慣を身に付けさせること」。習慣は第二天性です。家庭、学校、地域で、それぞれ育みたいしつけとは…。



**心の東京ルール — 7つの呼びかけ — (心の東京革命推進協議会)**  
**「大人が変われば、子供も変わる 子供が変われば、未来が変わる」**

- 1 毎日きちんとあいさつさせよう
- 2 他人の子供でも叱ろう
- 3 子供に手伝いをさせよう
- 4 ねだる子供にがまんをさせよう
- 5 先人や目上の人を敬う心を育てよう
- 6 体験の中で子供をきたえよう
- 7 子供にその日のことを話させよう

**協議の視点** Q. 子供の自立、社会人としての基盤づくりに向け、重視したいしつけは？

**東京都道徳教育教材集** 子供たち一人一人が道徳的価値の自覚及び生き方についての考えを深めるための教材です。

1・2年生版「心あかるく」 3・4年生版「心しなやかに」  
 5・6年生版「心たくましく」 中学生版「心みつめて」  
 ※ 家庭でもぜひ、お読みいただき、先人の生き方等について話題にしてください。

第1章・・・「名言・名句」「詩」「短歌・俳句」「歌詞」等の、心に響く珠玉の言葉を掲載しています。  
 第2章・・・先人の生き方を記した「伝記読み物」を掲載しています。  
 第3章・・・保護者の皆様にメッセージを書いていただく欄があります。

〔参考資料〕「自信 やる気 確かな自我を育てるために・子供の自尊感情や自己肯定感を高める指導資料」〔基礎編〕〔発展編〕 東京都教職員研修センター（平成23年3月、平成24年3月） 「家庭教育に関する国際比較調査」文部科学省（平成5年） 「日・米・中・韓の中学生の生活と意識調査」日本青少年研究所（平成21年） 「青少年の体験活動等と自立に関する調査」独立行政法人国立青少年教育振興機構（平成22年） 「東京の教育に関する都民意識調査」東京都教育庁（平成15年6月） 「高校生の心と体の健康に関する報告書 -日本・米国・中国・韓国の比較-」日本青少年研究所（平成23年3月）



# 平成25年度 東京都多摩教育事務所の主な事業紹介

## 1 東京都多摩地区教育推進委員会（通称「多摩推」）

【研究主題】

### 「言葉の力」を中核とした学校づくり

「言葉の力」については、子供に身に付けさせることはもとより、教師が自らの力を高め、教育活動の推進に当たって生かすことで、より充実した学校づくりが実現します。

今年度の多摩推では、「言葉の力」を中核とした学校づくりについて、「深める（子供との信頼関係、保護者との信頼関係、地域との連携）」、「生かす（組織、人材、地域の教育資源）」、「高める（子供の生きる力《学力、人間関係形成能力、感性・情緒、教師の指導力》）」の三つの視点から、提言を行います。

#### 報告会

**日時** 平成26年2月7日（金）  
14:00～16:30

**会場** 東京都多摩教育センター  
ホール

#### 過去の多摩推の研究内容についても、校内研修会等で説明を行います。

昨年度は子供たちの言語活動の質を高めることをねらいとした研究を行いました。「本校で研究内容を説明してほしい」といった要望がありましたら、東京都多摩教育事務所指導課へ御連絡ください。

電話番号 042-524-7137（指導課）

#### ＜平成24年度＞

クリティカル・シンキングを  
取り入れた授業づくり

— より高次の「知的創造」を目指して —

## 2 指導訪問

学校の課題解決に向けた指導・助言を行います。

職名	氏名	担当
指導課長	儘田 文雄	学校経営、教育課題、国語
統括指導主事	西川 さやか	学校経営、教育課題、国語
指導主事	浅野 あい子	算数、道徳、教育課程
指導主事	間嶋 健	社会、生活、総合的な学習の時間、教育課程
指導主事	諏訪伊都子	理科、特別活動
指導主事	濱田 昌也	数学、外国語
指導主事（併任）	上田 飛鳥	音楽
指導主事（併任）	吉岡 琢真	図画工作、美術
指導主事（併任）	拝原 茂行	体育、保健体育
教育専門員	村井 恒	算数、数学
教育専門員	鈴木 文雄	社会
教育専門員	高濱 俊光	体育、保健体育

所報「たまじむ」の特集記事  
についても説明します。  
ぜひ、御相談ください。

次号  
予告

所報「たまじむ」  
第2号

（10月25日発行予定）

特集① 学校経営の一層の充実 — 経営改善に資する学校評価 —  
 特集② 子供との信頼関係を深める 教師の「言葉の力」  
 特集③ 子供の人間関係形成能力を高める — 「言葉の力」の育成を通して —  
 特集④ 子供の考えを引き出し、広げ、深める発問の工夫

※ タイトルについては変更する場合がありますので、御了承ください。